

東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～ いわき湯本温泉の活性化 ～

大嶋 淳俊

A Study on Tourism Promotion Using PBL (Project Based Learning) Method in Restoration Assistance following the Great East Japan Earthquake

—Challenges to Revitalize Iwaki Yumoto Onsen —

Atsutoshi Oshima

1. 背景・目的

いわき市の常磐地区にある「いわき湯本温泉」は、奈良時代から続く日本三古泉の一つと呼ばれる由緒ある温泉地である。近隣には、映画「フラガール」で有名なスパリゾートハワイアンズも位置している。しかし、全国の地方の温泉地と同様、団体旅行客の減少などで、次第に困難な状況を迎えていた。とりわけ、2011 年 3 月の東日本大震災で大きな打撃を受け、6 年経った今でもなかなか好転していない。この状況を打破して活気を取り戻そうと、旅館の女将達が「フラ女将」グループを結成し、着物でフラダンスを踊るイベントの開催や、オリジナルカレーと日本酒のプロデュースなどを通じて震災復興に取り組んでいる。

しかし、阪神淡路大震災後の有馬温泉の再生の例からもわかるように、温泉地の活性化には若者の来訪増加による活気の創出が重要であるが、いわき湯本温泉の取り組みは若者への訴求力が低いという課題が強く認識されている。

そのため、研究代表者が地元のいわき明星大学に専任教員として着任した 2016 年度に、2 年生向け後期講義の地域連携型 PBL 授業の一環で、同温泉地の旅館、神社・仏閣、企業・商店、NPO 等と協力して、地元大学生の視点で同温泉地の活性化についての様々な方法を検討した。その結果、県外の若者に対するインターネットでの PR が重要であると結論に達し、地元の「魅力スポット」巡りをストーリー化した温泉地 PR 動画『謎とき湯本♨ ～いわき湯本温泉 魅力発見ムービー～』を学生主体で制作し、YouTube で公開した (<https://oshima-lab.wixsite.com/iwaki-onsen>)。この PR 動画は好評をえて、いわき湯本温泉旅館協同組合のホームページ (<http://www.iwakiyumoto.or.jp/>) にも継続的に掲載されている。

ただし、首都圏からの若者の観光誘客を図るには、やはり首都圏の若者の視点を踏まえた上での各種の取り組みが望ましい。そのため本事業では、地元の関係団体や旅行会社の協力

を得ながら「東京の女子大生の視点で同温泉地の魅力を再発見し、首都圏の若者に訴える旅行プランの策定や独自 Web サイト制作による情報発信を行う」という目標を掲げた。

同時に、東京の女子大生に、東日本大震災で災害のみならず風評被害に苦しむ いわき湯本温泉の現状について、元の関係者との交流を通じて学び、復興支援のための取り組みを体験する機会を提供することも視野にいて本プロジェクトを実施することとした。

2. 活動内容

2.1. プロジェクトの流れ

本事業は、次のように大別して 3 つのフェーズで進めた（表 1）。

表 1 フェーズ別の活用内容

フェーズ	主な活動内容
【フェーズ I】 ◆ 知識付与 ◆ 問題意識の深耕 ◆ 自ら情報収集・現地での交流を体験	1) 第 1 回会議〔6/16〕：同温泉地の観光状況や問題点を解説。温泉地の魅力や同温泉地で知りたいことについての課題レポートを設定。 2) 第 2 回会議〔7/7〕：課題レポートの結果共有、最終アウトプットの具体的イメージ把握、第 1 次アンケートの項目等の確認。 3) 第 3 回会議〔8/17〕：第 1 次アンケートの結果共有、第 1 次訪問での訪問先等の検討。 4) 第 1 次訪問調査〔9/4-5〕：全員で現地訪問し、複数の地元関係者の解説を受け、事前に検討した訪問先で取材・撮影等を実施。実施後、各自が学生レポートを作成して S-LABO に掲載。
【フェーズ II】 ◆ 収集情報の整理 ◆ 第 1 次訪問を踏まえた提案検討 ◆ 現地で発表	5) 第 4 回会議〔10/27〕：第 1 次訪問調査の結果整理、第 2 次訪問の取材先の検討、現地での中間報告の準備。 6) 第 2 次訪問調査〔11/10-11〕：Web サイト制作と旅行プラン作成のための追加取材、つるし雛作りやフラダンス等を体験、現地の関係者を対象にした中間報告会を実施。実施後、各自が学生レポートを作成して S-LABO に掲載。さらに、中間報告内容への具体的コメントを集めるため、後日、地元関係者にアンケートも実施。
【フェーズ III】 ◆ 第 2 次訪問と中間報告会の総括 ◆ 旅行プランや Web サイトなど成果物の完成	7) 第 5 回会議〔12/2〕：第 2 次訪問調査と中間報告会の総括、旅行プランや Web サイト内容の再検討。 8) 第 6 回会議〔1/19〕：旅行プランの改善を討議すると共に、会議後に第 2 次アンケートを実施して改訂案を作成。 9) 2 月～3 月：旅行プラン（さらに料理プランを追加）を完成させて（株）リクルートライフスタイル（じゃらん）に提案。独自 Web サイトは 3 月完成を予定。

上記以外にも、学生メンバーは昼休みや授業後に自主的に集まって何度もミーティングを実施していた。

2.2. 実施体制

(1) アドバイザー

磯野 彰彦 グローバルビジネス学部教授（兼 キャリア支援センター長/キャリア支援部長）

(2) 学生メンバー（学年順）

星 美涼	グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科 3 年
矢島 史菜	人間文化学部 日本語日本文学科 3 年
中野 みずき	人間文化学部 英語コミュニケーション学科 3 年
佐川 愛実	生活科学部 健康デザイン学科 2 年
後藤 史帆	生活科学部 健康デザイン学科 2 年
鈴木 真梨子	人間社会学部現代教養学科 1 年
鈴木 遥	人間社会学部 福祉社会学会 1 年

上記 7 名の学生メンバーは、学年・学部学科とも多様で、各自の得意分野や関心をうまく活かして積極的に取り組んだ。

2.3. 現地訪問調査、地元協力組織

事前準備を行った上で、現地訪問調査を 2 回実施した。実施においては、地元関係者に多大なるご協力を頂いた。その概要及び協力してくださった皆様は、次のとおりである。

(1) 第 1 回訪問調査の概要と協力者

【9/4】
➤ 講演「いわき湯本温泉の特徴・魅力、復興への取り組み」：草野 昭男 様〔いわき湯本温泉旅館協同組合 理事長 / 旅館 うお昭 社長〕
➤ 地元で人気の沖縄料理「A 屋食堂」でランチ：地元の声に触れる
➤ 講演・演習「観光・温泉地のトレンドとプラン造成のポイント」：齋藤 巖 様〔(株) リクルートライフスタイル じゃらん営業 福島チーム チームリーダー〕
➤ 湯本温泉 まち歩き 2 時間：小林 千賀子 様〔地元密着型コンビニ「ワイワイショップ」 店長 / 元サンシャインガイド〕
➤ 講演「女将からみたいいわき湯本温泉と旅館の魅力、フラ女将の活動」若松 佐代子 様〔雨情の宿「新つた」女将 / 湯の華会 会長〕
➤ 夕食後に振り返り

【9/5】

- 講演「いわき市といわき湯本温泉の観光の動向、復興への取り組み」浅倉 哲也 様〔福島民報社 いわき支社長〕
- 温泉神社を訪問・講話：佐波古 正彦 様〔温泉神社 禰宜〕
- 各自で事前に調べて関心を持った場所・店舗等を自主訪問・取材
- 地元で人気の「おかめ食堂」でランチ：老舗店の賑わいを感じる
- いわき FC パーク を訪問：温泉地とは異なる現代的な商業施設を知る
- 最後に、各自の気づきの共有と今後の活動予定を再確認

(2) 第 2 回訪問調査の概要と中間報告会

【11/10】

- 午前～15 時まで：学生が各自で取材・撮影
- 15 時～17 時： 中間報告会の準備
- 17 時～18 時 45 分： 中間報告会の開催（於：旅館こいと）

＜中間報告会の参加組織＞

- ・ いわき市役所
- ・ いわき商工会議所
- ・ いわき湯本温泉旅館協同組合
- ・ 温泉神社
- ・ 旅館こいと
- ・ 福島民報社
- ・ リクルートライフスタイル（じゃらん）

※全 21 名で開催。この後、交流会を開催。

【11/11】

- 午前：つるし雛作り 体験（講師：遠藤 様）
- 12 時～14 時 30 分：いわき FC パークを再訪問
- 15 時～16 時：フラダンス体験（講師：大平 ひかる 様）

※フラダンス体験は、小林千賀子 ワイワイショップ店長、草野昭男 いわき湯本温泉旅館協同組合理事長のご尽力で実現



図 1 中間報告会での学生達と地元関係者の皆様

3. 成果

3.1. 学生が制作した成果物

(1) 旅行プラン『日常の中の特別（おんせん）』

観光促進を目指して、若者向けの新たな旅行プランの作成に取り組んできた。学内外の若者へのアンケート調査や 2 回の現地調査、地元関係者へのアンケートなどを基に様々なプランを練った。

作成にあたって様々なアドバイスを頂いてきた（株）リクルートライフスタイル（じゃらん）に、旅行プランの実現に向けて 2 月下旬に提案することになっている。本稿執筆時点では、次のとおりである。

『日常の中の特別（おんせん）』という共通コンセプトの下に、部分的に異なる 2 つのプランを作成している（図 2）。

- 第 1 案： フラの街らしくフラダンス体験を中心に、街歩きをする構成
- 第 2 案： つるし雛作りやけん玉・だるまの絵付けを中心することで、いわき湯本の日常に入り込める構成

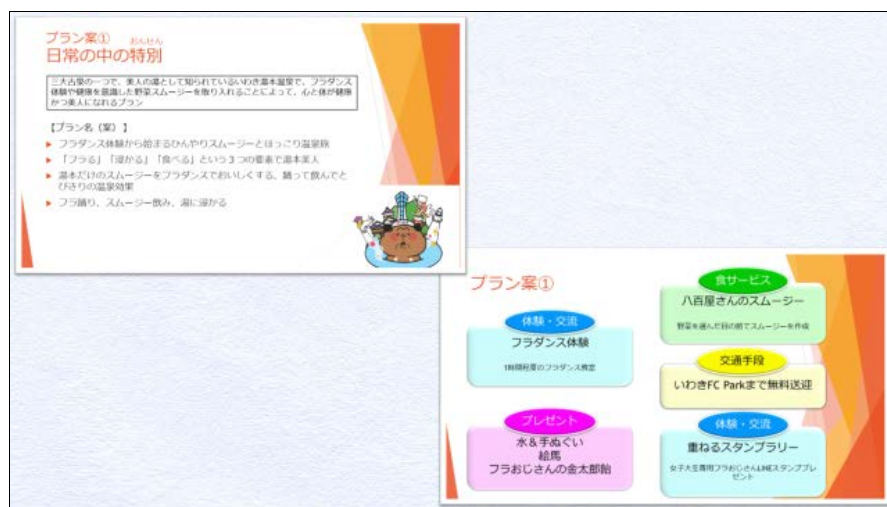


図 2 旅行プラン『日常の中の特別 (おんせん)』の一案

(2) 観光促進のための Web サイト『いわき湯本温泉ガイドマップ』(仮称)

3 月の完成を目指して、学生目線で映像等を駆使していわき湯本温泉を紹介するインターネット上のガイドマップを制作中である。

(3) その他の各種企画案・土産物案

中間報告会で発表した各種の企画案・土産物案について、地元関係者の間で「とてもユニークなものが多い」と関心が高かった (図 3)。



図 3 中間報告会で発表した企画案・土産物案の例

3.2. マスメディア等を通じた広報実績

本プロジェクトが、いわき市内外で広く認知されるように、マスメディアを通じて広報活動に力を入れた。

(1) 新聞

福島県で最大の発行部数を誇る新聞『福島民報』で次のように紹介された。

- ①『福島民報』（地方版，朝刊：掲載日 2017/09/15）：第 1 次訪問調査の様子を詳しく紹介

若い力で温泉街誘客へ

昭和女子大「活性化プロジェクト」



浅倉支社長（手前右）の話を聞くプロジェクトのメンバー

湯本で学生が研修

昭和女子大（東京都）現代ビジネス研究所の「いわき湯本温泉活性化プロジェクト」に参加している学生七人団、五の四日、いわき市のいわき湯本温泉を訪れ、研修に臨んだ。プロジェクトは東白 泉に首都圏の若者を誘本大震災と東京電力福 客し、温泉街の活性化島第一原発事故からの につなげる取り組み。復興の道を歩む湯本 いわき明星大教養学部

今回と同温泉旅館協同組合の草野昭男理事長、雨情の宿新つた女将（おかみ）の若松佐代子さん、福島民報社いわき支社の浅倉哲也支社長らからそれぞれの立場で見た温泉の魅力や復興状況などについて話を聞いた。地元の飲食店や土産屋、温泉神社も見学した。参加した星美涼さん（三年）は、事前に調べた情報と、訪れて感じた印象は違った。実際に感じた良い所をガイドブックやプランに詰め込めるようにしたいと話した。

- ②『福島民報』（地方版，朝刊：掲載日 2017/11/15）：第 2 次訪問調査で開催した「中間報告会」の様子を詳しく紹介

若者誘客の方法探る

湯本温泉で昭和女子大生 いわき いわき湯本温泉活性化プロジェクトに取り組み昭和女子大（東京都）現代ビジネス研究所に参加する学生七人は十日、いわき市・湯本の旅館こいででプロジェクトの中間報告会を開いた。報告会には二世代の女性対象アンケートを基に、テーマを「復興に励むいわき湯本



いわき湯本温泉の活性化策を説明する学生

映える食卓を飾る絵や、新たな土産品と料理の開発、フランス教室や版画風の重ね絵を使うスタンフランチ作り」に設定。スマホなどで地図上の店舗や観光施設のアイコンをクリックすると、画像、案内、特典が表示される案などを説明した。いわきの観光情報ナビゲーターフラおじさんを活用した若者向けLINEスタンプの作成も提案した。草野昭男いわき湯本温泉旅館協同組合理事長、小井戸文恵湯の華会副会長ら地元関係者と市、いわき商工会議所の関係者が報告を聴き、意見を述べたり、助言したりした。

この他、『福島民報』（論説「【いわき湯本温泉】多彩な連携で再生を」：掲載日 2017/12/6）などでも、本プロジェクトの活動が紹介されている。

（2）ラジオ

ラジオ福島の情報番組「朝から全開！」内の「全開朝ゼミ！～ビジネスマン学習塾～」(毎週月曜日)の中で下記の日程で、本プロジェクトの活動の進捗状況などを紹介した。

○放送局：ラジオ福島（いわき：1431KHz／福島：1458KHz／郡山：1098KHz／会津若松：1395KHz）

○出演者：大嶋淳俊 いわき明星大学 教養学部 教授／小川栄一 アナウンサー

○放送日・テーマ：

2017 年 10 月 9 日（月）

2018 年 1 月 22 日（月）

2018 年 3 月 19 日（月） ※予定

（3）定期刊行物

福島県最大の金融機関である東邦銀行系のシンクタンク「とうほう地域総合研究所」の機関誌に掲載された次の論文で、本プロジェクトを紹介した。

一般財団法人 とうほう地域総合研究所 『機関誌 福島の進路』2012 年 12 月号 No.424
「私の研究 戦略×人材育成×リーダーシップ開発 ～体験的『実践経営学』への挑戦～」
(いわき明星大学 教養学部 教授 大嶋 淳俊)
http://fkeizai.in.arena.ne.jp/wordpress/wp-content/uploads/2016/01/kikou_kenkyu_2017_12_3.pdf

（3）S-LABO による進捗報告と学生の情報発信の体験

学内メディアである S-LABO を通じて、定期的な会議の状況報告から、第 1 次・第 2 次訪問調査、中間報告会などで学生達が学び・気づいたことについて、積極的に広報活動を行った。その一例として、第 2 次訪問調査の後に、全ての学生が執筆した感想と写真を、本稿の「付属資料」として収録する。

4. 今後の展望

本稿では、「東北復興支援のための PBL 手法による観光促進に関する研究 ～ いわき湯本温泉の活性化 ～」プロジェクトの平成 29 年度の活動概要を紹介した。参加学生達は、事前調査の後、地元関係者の協力を得ながら 2 回の現地調査と中間報告会、旅行プラン等の

提案作成から観光促進のための Web サイト制作まで、様々な活動に積極的に取り組んだ。

いわき湯本温泉、いわき市、いわき商工会議所など地元の関係団体や、(株) リクルートライフスタイル (じゃらん) など協力組織は、学生達の熱意とユニークなアイデアにとっても感心し、積極的に協力いただき、現在も本プロジェクトに強い関心を持っている。

また、本プロジェクトを通じて、学生達の東北復興支援についての理解や、地域の魅力の発見と伝え方の実践、そして地域活性化に必要なことについて、深く考え・学ぶ機会を提供することができた。

平成 29 年度は、以上のように多彩な活動を積極的に展開して、良いスタートを切ることができた。

ただし、提案した旅行プランの具体化や地元旅館との調整、新たな土産物づくりなど各種企画案の実践、試作した観光促進のための Web サイトの内容充実、そしてこれらの首都圏でのマーケティングなど、取り組むべき課題は明らかになってきている。

今後は、本プロジェクトを発展させ、いわき湯本温泉を一つの舞台として「東北復興支援」に首都圏の大学生が取り組んで、さらに「目に見える」成果の創出につなげていきたい。また、「首都圏大学との連携を通じた、温泉地の観光マーケティング戦略と地域活性化」についての学術研究に寄与することも目指したい。

【参考文献】

平成 28 年度 大学等と地域の連携した「まち・ひと・しごと」創生推進事業『地域連携 PBL による“まち・ひと・しごと”活性化』報告書 [いわき市委託事業 実施責任者：大嶋淳俊]

【謝辞】

最初に、本プロジェクトに多大なるご協力を頂いた、いわき湯本温泉の関係者の皆様、様々な形でご支援いただいたいわき市役所、いわき商工会議所、福島民報社、(株) リクルートライフスタイル (じゃらん) の皆様に深く御礼申し上げます。地元の関係者の暖かいご配慮と熱い励ましが、学生達のやる気に火をつけ、「目に見える成果」を生み出すと共に、学生達の成長に大きくつながりました。

アドバイザーである磯野教授には、現代ビジネス研究所の活動に参加 1 年目の筆者に懇切丁寧にご指導いただきました。また、ご多忙にも関わらず、ほとんどの会議から訪問調査まで参加し、プロジェクトの円滑な進行と成果創出に多大なるご協力を頂き、感謝しております。

最後になりましたが、本プロジェクトの主役である参加学生の皆さんの熱意と発想の豊かさと創意工夫に、いたく感銘を受けました。ぜひその「強み」を磨いて、これからも成長を続けて活躍して欲しいと願っています。

【付属資料】

S-LABO 掲載内容の一例として、「第 2 回現地訪問の感想です」(2017 年 12 月 6 日掲載)と題する、第 2 回訪問調査&中間報告会に対する学生達の感想を収録する。

今回は、11 月 10 日から 11 日にかけて行われた第 2 回現地訪問を終えてのプロジェクトメンバー 7 名の感想を紹介します！

＜福祉社会学科 1 年 鈴木遥＞

中間報告会后、来てくださった方のお一人に、県外の人間が町おこしに関わることにについてどう思うかをお聞きしたところ、『「風の人」(*1) となるため批判を受けることもあると思うが、どうしてそうしたいと思うのかきちんと背景を伝えて諦めないでほしい。』とおっしゃってくださった。

この言葉を受けて、あらためて今回のいわき湯本温泉のプロジェクトをよい結果に繋げたいと感じたと同時に、今後、他の地域に携わるときも最後まで諦めずに取り組みたいと思いました。

(*1 「風の人」:「土の人」の反対語で外部から来てその土地を盛り上げる人のこと)



第 1 回訪問でお話をお聞きした地元の方と再会！（この日は風が強かったです）私は右側。

＜現代教養学科 1 年 鈴木真梨子＞

第 2 回訪問まで何度も重ねた学生ミーティングでは、女子大生が興味を引かれるポイントは何かについて、客観的な視点で考えることは難しかった。

中間報告でのプレゼンテーションは緊張したが、私たちの提案を暖かく受け入れ、応援してくださった地元の方々に感謝したい。今後の活動も頑張りたい。



地元のお菓子屋さん「ことり菓子店」でお菓子を買いしました！ 私は一番左。

＜健康デザイン学科 2 年 後藤史帆＞

中間報告会で湯本の方々から直接意見を聞くことができ良かった。湯本の方々の期待を裏切らないよう、メンバーと協力してデジタルガイドマップを作り上げたい。



温泉神社にて。紅葉がきれいでした。私は左から 2 番目。

＜健康デザイン学科 2 年 佐川愛実＞

第 2 回目の訪問では、デジタルガイドマップを制作する上で必要な写真や動画を撮ることができた。また、今回はフラダンスに挑戦したり、つるし雛作りなど、いわき湯本温泉ならではの体験を楽しむことが出来た。今後は現地訪問で得たことを活かして、活動を進めていきたい。



人生初のフラダンス体験。とても楽しかったです！私は手前から 3 番目。

＜英語コミュニケーション学科 3 年 中野みずき＞

湯本の方々が私達の企画案に率直な意見をくださった。商品開発に関する企業戦略を含むご指摘には頭かざるを得なかった。様々な分野の方々との意見交換は私共のこれからの活動の貴重な材料となった。



お世話になった、こいと旅館の女将・ふみえさんと。私は一番右。

＜日本語日本文学科 3 年 矢島史菜＞

デジタルガイドマップ用の素材集めでは、慣れない動画撮影で上手く出来るか不安だったが、楽しんでいる感じが伝わればと思いながら撮影した。前回訪問でできなかったスポットも周ることができ、かなり充実した調査になった。また、現地の方のご好意で急遽実現した「つるし雛作り」や、本格的なフラダンス教室などの貴重な体験もさせていただいた。私達のために、忙しい中、ご協力してくださった方々の為にも、最終成果物が良いものとなるよう力を入れて頑張っていきたい。



フラダンスを教えてくれた大平先生と。私は一番右。

＜ビジネスデザイン学科 3 年 星美涼＞

今回の現地訪問は、中間発表や体験活動など、地元の方々とお会いして、お話やご指摘、ご意見を伺う機会がたくさんあり、このプロジェクトを成功させるために貴重なものになった。特に中間発表会では、自分たちが考えた案に地元の方が強い関心を持ってくださったものがいくつもあり、この先、自信をもって進めていけると感じた。それと共に、ご指摘や助言も沢山いただいたため、それらを基にプロジェクト成功まで走っていきたい。



中間報告にて。私は一番左。